

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3138178号
(U3138178)

(45) 発行日 平成19年12月27日(2007.12.27)

(24) 登録日 平成19年12月5日(2007.12.5)

(51) Int.Cl.

A47C 27/00 (2006.01)

F I

A47C 27/00

Q

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2007-3646 (U2007-3646)
 (22) 出願日 平成19年4月17日(2007.4.17)
 (31) 優先権主張番号 200620048473.X
 (32) 優先日 平成19年1月12日(2007.1.12)
 (33) 優先権主張国 中国 (CN)

(73) 実用新案権者 507162854
 陸 慧萍
 京都府京都市中京区三条通高倉東入 榎
 屋町60 グラビスコート三条堺町205
 号
 (72) 考案者 陸 慧萍
 京都府京都市中京区三条通高倉東入 榎
 屋町60 グラビスコート三条堺町205号

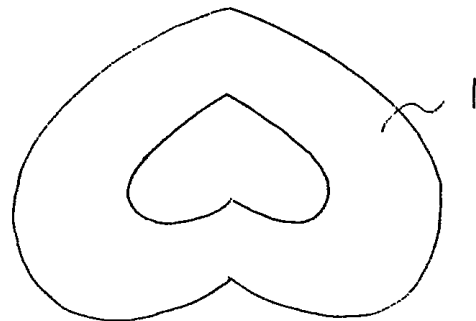
(54) 【考案の名称】 本実用新案は日常生活全般で使用、或は介護用品でもある。座る、寝る時に体重によるお尻の形崩れを防止するために使われるヒップアップ座布団或はクッションである。

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 ハートドーナツ形の座布団或はクッションで体脂肪の流動性と可塑性を利用し逆ハート形が臀部を最も理想的と思われる形を模型として、身体の自然な曲線をキープし、体圧でヒップアップを実現する。

【解決手段】 ハートドーナツ形の座布団或はクッション1は、身体の自然な曲線に合わせて作ってある均等なハートドーナツ形である。本品のハートドーナツ形のクッションの表面は、伸縮が無い或いは伸縮性の少ないカバーで内部は流動性のある発泡スチロール顆粒で製作する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

特徴は体の自然な曲線に合わせ、お尻を最も理想的と思われる逆ハートドーナツ形に整えるハートドーナツ形のヒップアップ座布団或はクッションである。

【請求項 2】

請求項 1 に基づき、カバー材質に伸縮が無い或いは伸縮性の少ない生地で内材は流動性がある発泡スチロール顆粒である。ハートドーナツ形のヒップアップ座布団或はクッションである。

【請求項 3】

請求項 2 に基づき、伸縮が無い或いは伸縮性の少ない生地で変形しにくい布地、人造皮革或いはその素材の組合である。ハートドーナツ形のヒップアップ座布団或はクッションである。 10

【請求項 4】

請求項 3 に基づき、芯材、顆粒は、直径 1 ～ 3 mm の発泡ビーズである。
ハートドーナツ形のヒップアップ座布団或はクッションである。

【請求項 5】

請求項 1、或は請求項 2 の下部に蝶番で座面と連結、座面の中にはガイドレールが埋め込んである。ハートドーナツ形のヒップアップ座布団或はクッションである。

【請求項 6】

座布団或はクッションが、左右二つに分かれこのハート形半分は両端が蝶番で座面の下に埋め込んであるレール軌道に連結、横転倒、座面中央へ滑り合わせてハート形になります。 20

【請求項 7】

請求項 6 のこの半ハートの内部には硬い芯棒を入れ形状安定させ、かつ心棒の外部を柔らかい材料で包む。ハートドーナツ形のヒップアップ座布団或はクッションである。

【請求項 8】

請求項 7 の柔らかい材料、天然材質の綿、ウレタン等で作るハートドーナツ形のヒップアップ座布団或はクッションである。

【考案の詳細な説明】**【背景技術】**

従来の座布団、クッションの多くは柔らかさと広さで臀部と座面の接触面積を拡大する方法で耐圧を分散し、体圧による局所の痛みや疲労を緩和するものであった。体脂肪の流動性と可塑性を利用して座る寝る時の体圧とハートドーナツの独特な形で体の自然な曲線をキープし、お尻を理想的な形に整えることを考えて作られたものではありませんでした。従来の座布団、クッション或は座る道具には下記にあげる欠点がある。 30

1. 現代人は座っている時間が多いと考えられ、従来の座る道具が太ももとお尻の間にある曲線に合わせ、お尻の脂肪が太ももやお尻の外側に押し流されることを防ぐような作りが無く、座る寝ることによって自分の体重で臀部の形を押し潰す事になってしまっていた。

2. 座る道具をどんなに柔らかく設計しても圧迫される部位がお尻の中心、最も突起している部分である。 40

3. 坐骨が直接圧迫されるのは脂肪、臀部の変形下垂の直接原因である。

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】**

本考案で解決する技術問題はハートドーナツ形の座布団、クッションで体脂肪の流動性と可塑性を利用し逆ハート形が臀部を最も理想的と思われる形を模型として、身体 of 自然な曲線をキープし、体圧でヒップアップを実現する。

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、本考案はハートドーナツ形のクッションを提供する。このクッションは、身体 of 自然な曲線に合わせて作ってある均等なハートドーナツ形である。 50

本品のハートドーナツ形のクッションの表面は、伸縮が無い或いは伸縮性の少ないカバーで内部は流動性のある発泡スチロール顆粒で製作する。

伸縮が無い或いは伸縮性の少ない生地は、変形しにくい布地、皮革、人造皮革である。

顆粒は、直径 1 ～ 3 mm の発砲ビーズなど。

座布団、クッションは椅子などの座る道具と組み合わせて使えます。

椅子などの座る道具の座面の中にガイドレールを埋め込み座布団、クッション底部の連結棒で椅子などと連結する。

座布団、クッションは左右二つの半ハート形で構成する。半ハートの両端は椅子などの座る道具に埋め込んであるガイドレールと接続、座面中心へ滑動し、ハート形に合成する。 10

半ハートのクッションは、形状安定の硬い芯棒とこれを包む柔らかい材料で構成する。柔らかい材質は、綿、ウレタンなどである。

【考案の効果】

座る時の体圧を臀部中心から四周へ分散し、お尻の突起を守る、お尻と太ももの間にある凹みをキープし、体重で臀部の突起部分の脂肪が太ももへ押し流されることによるお尻の下垂を防ぐ、臀部四周も球状座布団に制約され、脂肪がつきにくくなる。

本考案は従来の臀部中心で体重を支えることを避け、臀部と太ももの間から臀部周囲で体重を支え、お尻の中心部分を着地させない為、寝る、座る時、お尻の下に敷くと臀部の突起を守り、太ももとの間にある凹みをキープし、ヒップアップを目指すことが考えられる。 20

座布団、クッションは、腰掛、肘掛にも兼用できます。

ハートドーナツ形なので装飾性もあります。

【実施例】

以下、椅子と組み合わせた実施例を図 1 ～ 図 5 に基づいて説明する

実施例 1

腰掛、クッション兼用形

図 1 本考案の正面図、身体及び臀部の自然な曲線に合わせて作られた環状ハート形の座布団、クッションである。表面は伸縮性が無い或は伸縮性の少ない布地でカバーとし、内部は流動性がある顆粒直径 1 ～ 3 mm の発砲ビーズ。 30

実施例 2

図 2 は、本考案を腰掛に使う時の実施正面図、図 3 は、本考案をクッションに使う時の俯瞰図、

クッション 1 ' は、身体及び臀部の自然な曲線に合わせて作られた環状ハート形のクッションである。クッション 1 ' の座面の下にガイドレールを埋め込みクッション 1 ' の底面の連結棒で座面のガイドレールと連結する。クッション 1 ' は、椅子の背 2 1 ' の前に立つ。使用する時クッションを少し引き上げる、クッション底面にある連結棒は中央、上下に自由に移動できる。座面 2 2 ' へ転倒するとクッションになる。逆操作すると腰当てになります。クッションを形状安定する硬い心材には柔らかいウレタンなどで包む。

実施例 3

肘掛、クッション兼用形

図 4 は、本考案を肘掛に使用する時のもう一つの実施正面図

図 5 は、本考案をクッションに使用する時のもう一つの状態の実施俯瞰図

クッション 1 ' ' は、身体及び臀部の自然な曲線に合わせて作られた球状ハート形のクッションである。

クッション 1 ' ' 二つの半ハート形輪郭で構成し、二つの半ハート輪郭図 4 のような状態で座面の両サイドに立てると肘掛になります。肘掛 1 1 ' ' 、1 2 ' ' の両端は、90 度転倒出来るようになって座面の中に埋めてあるガイドレールと繋がる。肘掛 1 1 ' ' 、1 2 ' ' 外側へ 90 度転倒し座面の上で平行に中心へ滑動して 1 ' ' のハートクッションになる。逆操作すると肘掛に戻ります。半ハート形輪郭の心材は形態安定の硬い心棒に 50

柔らかいウレタンなどで包む。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 平面図

【図 2】 椅子背もたれの正面図

【図 3】 椅子座面の俯瞰図

【図 4】 肘掛に使用する時の正面図

【図 5】 椅子座面クッションに使用する時のもう一つの状態実施俯瞰図

【符号の説明】

1 座面クッション

1 a 座面クッション

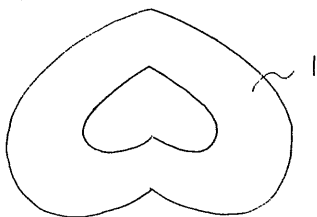
2 椅子

2 a 背面

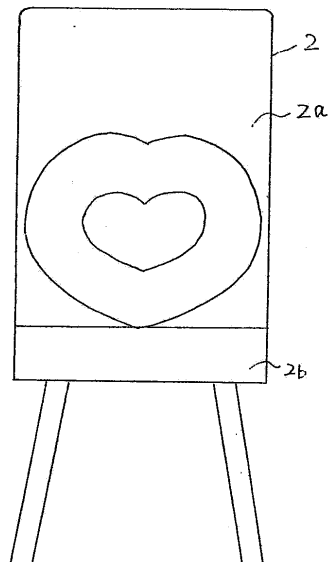
2 b 座面

3 肘掛

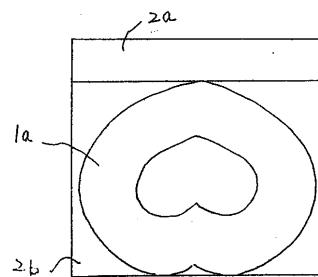
【図 1】



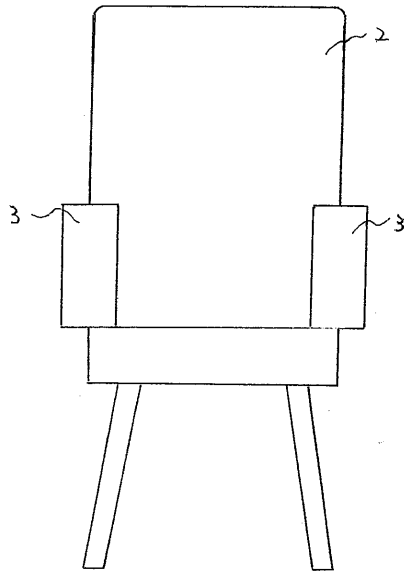
【図 2】



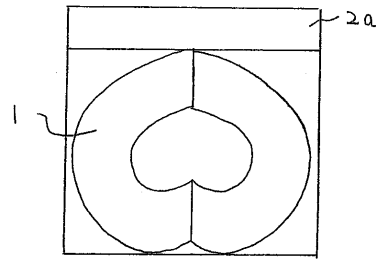
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【手続補正書】

【提出日】平成19年6月21日(2007.6.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

特徴は体の自然な曲線に合わせ、お尻を最も理想的と思われる逆ハートドーナツ形に整えるハートドーナツ形のヒップアップ座布団或はクッション。

上記について、

(1) カバー材質に伸縮が無い或いは伸縮性の少ない変形しにくい生地布地、或いは人造皮革などの素材の組合である。

(2) 内材は流動性がある直径1～3mmの発泡スチロール顆粒である

以上から構成するヒップアップ座布団或はクッション。

【請求項 2】

請求項1のクッションを椅子の肘掛に左右二つに分かれ組み合わせ、クッションの下部には蝶番で椅子座面と連結、椅子座面の中にはガイドレールが埋め込んであるレール軌道に連結、横転倒、座面中央へ滑り合わせてハート形になるハートドーナツ形のヒップアップ座布団或はクッション。

【手続補正書】

【提出日】平成19年9月17日(2007.9.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

体の自然な曲線に合わせ、お尻を最も理想的と思われる逆ハート形に整えるハートドーナツ形のヒップアップクッションにおいて、カバー材質に伸縮が無い或いは伸縮性の少ない変形しにくい布地、或いは人造皮革などの素材を用い、内材は流動性がある直径 1 ～ 3 m m の発泡スチロール顆粒を詰めることを特徴とするヒップアップクッション。

【請求項 2】

前記ハートドーナツ形のヒップアップクッションは中央から分割可能であり、分割収納の場合は椅子の左右の肘掛として使用可能であり、合体している時は椅子の座部中央でハートドーナツ形になることを特徴とする請求項 1 に記載するヒップアップクッション。